実習内容
ならびに
スケジュール

# 臨床検査部

| 曜日 | 内容 | 担当 | 集合時間 | 集合場所 |
|---|---|---|---|---|
| 月 | 経食道心エコー検査<br>昼食<br>臨床推論<br>～臨床検査をどのようにオーダーする～ | 大門<br><br>朝倉 | 9：15<br><br>14：30 | 病院棟4階（4A）<br>生理機能検査室・超音波センター<br>超音波検査室19番<br><br>2号館4階合同カンファレンス室③ |
| 火 | 採血実習<br>昼食<br>超音波実習 | 宮﨑/森本<br><br>菅原 | 9：40<br><br>14：00 | 2号館4階合同カンファレンス室③<br><br>2号館4階合同カンファレンス室③ |
| 水 | ＜感染制御部臨床実習＞ | | | |
| 木 | 午前　＜医療クオリティ臨床実習＞<br>生理機能検査実習 | 柴山 | 14：00 | 病院棟4階（4A）<br>生理機能検査室・超音波センター<br>筋電図検査室前 |
| 金 | 午前　＜予備日＞<br>午後　＜医療クオリティ臨床実習＞ | | | |

◎　診療科名：　臨床検査部

◎　責任者氏名：　朝倉　正紀　主任教授

◎　指導教員氏名：　宮﨑　彩子　准教授

菅原　政貴　講師

森本　麻衣　助教

大門　愛加　助教

◎　実習概要

採血実習、生理機能検査実習などを行い、臨床検査領域における各種疾患の病態生理に基づいた適切な臨床検査の立案と検査結果の評価を目指す。

◎　各診療科における到達すべき学修成果（アウトカム）

（臨床実習の授業概要「到達目標（アウトカム）」に準拠する）

- 臨床検査の感度、特異度、尤度比、的中率を説明できる。
- 検体処理・保存方法を説明できる。
- 精度管理とその重要性を説明できる。
- 検査診断のプロセスを説明できる。
- 臨床検査値から病態を判断できる。
- 安全に静脈採血ができる。
- 筋電図検査の手順を説明できる。
- 超音波検査の手順を説明できる。

◎　準備学修ならびに事後学修に要する時間

- 静脈採血手技、筋電図について復習しておくこと（2 時間）
- 2 年次「臨床入門」、3 年次「検査学」の講義資料をよく復習すること（1 日程度）
- 「検査値を読むトレーニング」（医学書院）、「異常値の出るメカニズム（第 8 版）」（医学書院）、「標準臨床検査医学（第 5 版）」（医学書院）などをよく読んでおくこと（2 日程度）

## ◎　評価方法

臨床検査部における各種実習毎に評価を行い、総合して判定する。
適宜質問を行い知識の確認、理解度をはかる。
**知識、態度（積極性）、コミュニケーション、診察手技（Mini-CEX、DOPS、シミュレーターを用いた技能評価など）、について評価。**
**評価基準をルーブリックで明示。**

**【知識】**

| 点数 | 基　準 |
|---|---|
| 5 | 1）実際の症例に感度、特異度、尤度比、的中率を応用することができる。<br>2）精度管理の実際のデータをみてアセスメントができる。<br>3）検体検査結果から病態について正しいアセスメントをし、次に必要な検査・治療を提案できる。<br>4）一般的なものに加えて特殊な検体処理と保存方法について説明できる。<br>5）問診から臨床検査を適切に実施できる。 |
| 4 | 1）感度、特異度、尤度比、的中率を計算できる。<br>2）精度管理とその重要性を説明できる。<br>3）検体検査結果から病態について正しいアセスメントをすることができる。<br>4）一般的な検体処理と保存方法について説明できる。<br>5）問診から適切な臨床検査を実施することを説明できる。 |
| 3 | 1）感度、特異度、尤度比、的中率を説明できる。<br>2）精度管理について説明できる。<br>3）検体検査結果から病態を予想することができる。<br>4）一般的な検体処理と保存方法について理解している。<br>5）問診から適切な臨床検査を実施することを理解している。 |
| 2 | 1）感度、特異度、尤度比、的中率について理解している。<br>2）精度管理の重要性を理解している。<br>3）検体検査の各項目がどのような病態で異常値を示すか理解している。<br>4）一般的な検体処理と保存方法について部分的に理解している。<br>5）問診から適切な臨床検査を実施することを部分的に理解している。 |
| 1 | 1）感度、特異度、尤度比、的中率について部分的に理解している。<br>2）精度管理について部分的に理解している。<br>3）検体検査の各項目がどのような病態で異常値を示すか部分的に理解している。<br>4）検体処理と保存方法により測定値に違いがあることを理解している。<br>5）問診から臨床検査を実施することを少し理解している。 |

【態度】

| 点数 | 基　準 |
|---|---|
| 5 | 1）疑問に思ったことを自分で調べ他のメンバーに教えることができる。<br>2）実技実習で他のメンバーの手助けができる。 |
| 4 | 1）疑問に思ったことを自分で調べることができる。<br>2）実技実習に積極的に取り組む。 |
| 3 | 1）積極的に教員に質問することができる。<br>2）実技実習に真面目に取り組む。 |
| 2 | 1）教員に質問されれば答えるが自分からは質問しない。<br>2）実技実習に参加しているが、やや消極的である。 |
| 1 | 1）教員に質問されても答えない。<br>2）実技実習に積極的に参加しない。 |

【コミュニケーション】

| 点数 | 基　準 |
|---|---|
| 5 | 欠席や遅刻したメンバーに連絡事項を伝達できる。 |
| 4 | 時間通りに出席し、自分から挨拶をすることができる。 |
| 3 | 時間通りに出席し、挨拶できる。 |
| 2 | 教員に挨拶できる。 |
| 1 | 遅刻や無断欠席をしない。 |

【手技】

| 点数 | 基　準 |
|---|---|
| 5 | 1）他のメンバーに静脈採血法を指導できる。<br>2）超音波検査の補助ができる。<br>3）筋電図検査の補助ができる。 |
| 4 | 1）安全に静脈採血を行うことができる。<br>2）超音波検査の手順について説明できる。<br>3）筋電図検査の手順について説明できる。 |
| 3 | 1）静脈採血の手技を理解している。<br>2）超音波検査の方法を理解している。<br>3）筋電図検査の手順について理解している。 |
| 2 | 1）安全・清潔に配慮できる。<br>2）超音波検査の方法を部分的に理解している。<br>3）筋電図検査の手順について部分的に理解している。 |
| 1 | 1）静脈採血に必要な物品を理解している。<br>2）超音波検査に必要な物品を理解している。<br>3）筋電図検査に必要な物品を理解している。 |

## ◎　中間評価とフィードバック

実施しない。

## ◎　注意事項

月曜日午前と木曜日午後は病院棟４階（４Ａ）の生理機能検査室・超音波センターで実施する。有人受付に声をかけ、超音波検査室⑲、筋電図検査室前にそれぞれ集合すること。
その他の実習は２号館４階合同カンファレンス室③で行う。